

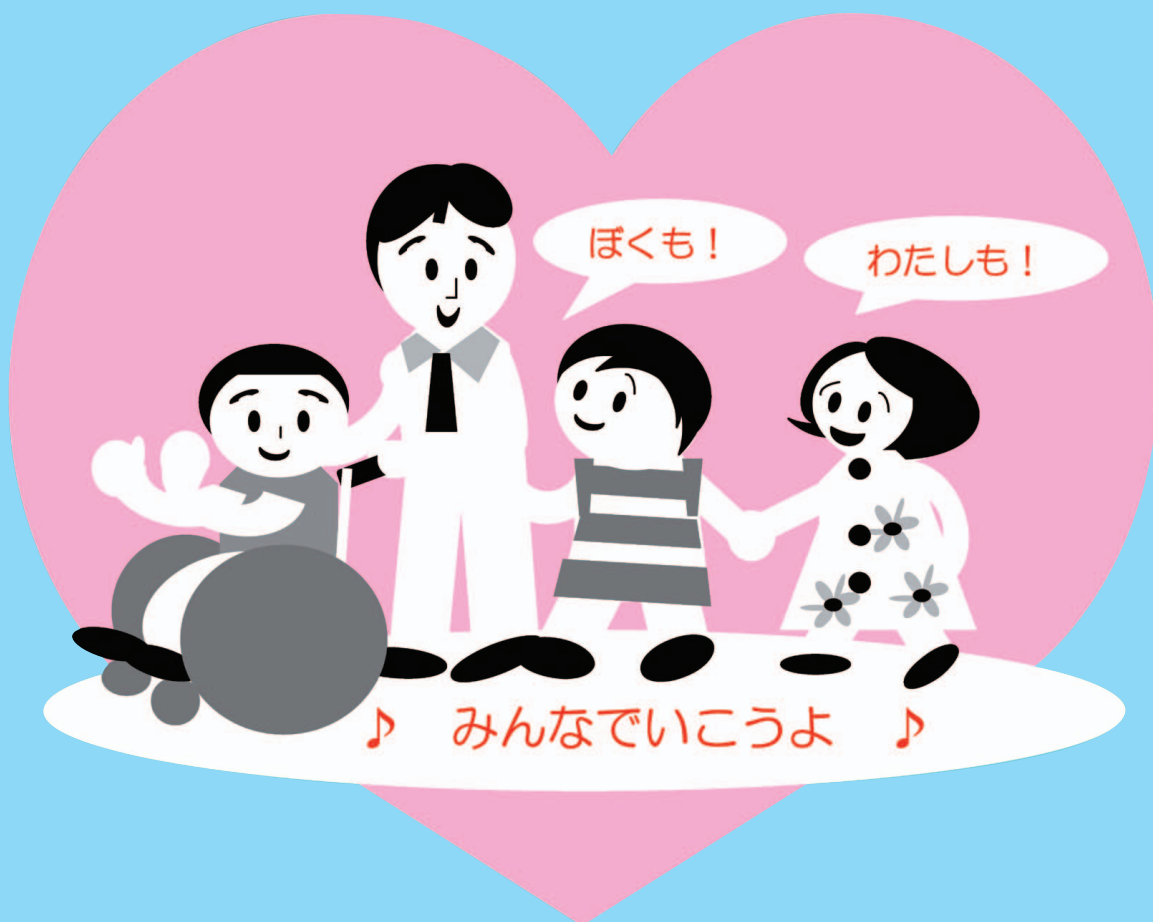
平成21年度障害者週間行事

しょうがいしゃ しゅうかん つど

# 障害者週間の集い

～ともに支え合う共生社会の実現を目指して～

- 日時：平成21年**12**月**2**日(水)午後1時30分(午後1時開場)
- 会場：沖縄県庁4階講堂(手話通訳・要約筆記あり)



主催：沖縄県

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

沖縄県福祉保健部障害保健福祉課

電話 098-866-2190 FAX 098-866-6916



# 第1部

平成21年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」の最優秀賞及び優秀賞の受賞者表彰

時間 13:30-14:00

障害のある人に対する理解を広めるため、県民から募集した「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」の最優秀賞及び優秀賞の受賞者表彰を行います。  
また、沖縄県知事賞を受賞した安生心優さんが体験作文を朗読します。

## 1 表彰式

### (1) 心の輪を広げる体験作文

#### ① 小学生部門

沖縄県知事賞・最優秀賞

みんなともだち、いちねんせい

石垣市立白保小学校 1年生

安生心優

#### ② 中学生部門

最優秀賞

「障害を持つ人の気持ち」

沖縄尚学高等学校附属中学校 3年生

長嶺佑香

優秀賞

「心の輪」

沖縄尚学高等学校附属中学校 2年生

田場衿花

みんな同じ

沖縄尚学高等学校附属中学校 3年生

都倉結衣

#### ③ 高校生・一般部門

優秀賞

大切な言葉

沖縄県立首里東高等学校 3年生

浦崎汐璃

### (2) 障害者週間のポスター

#### ① 小学生部門

優秀賞



安里一香

糸満市立潮平小学校 4年生

#### ② 中学生部門

優秀賞



伊禮千秋

北谷町立桑江中学校 3年生

## 2 心の輪を広げる体験作文沖縄県知事賞

### みんなともだち、いちねんせい

あんじょう み ゆ  
安生 心優



「どんなこがいるのかなあ。」  
「どんなゲームをするのかなあ。」  
わたしは、すごくドキドキしていました。  
ろくがつつつか、わたしたちのがっこうととくべつしえんがっこうの、こうりゅうじゅぎょうがありました。  
まえに、  
「しえんがっこうってなあに？」  
と、おかあさんにきいたら、  
「どこかにしょうがいがあって、ふつうのがっこうにいけないひとのための、がっこうなんだよ。」  
と、おしえてくれました。そのときは、  
「ふうん、そうなんだ。」  
としか、わたしはおもってませんでした。  
しえんがっこうにいくなんにちかまえ、  
「しえんがっこうのいちねんせいは、よにんです。なまえをおぼえてあげましょうね。」  
と、せんせいが、よにんのなまえをおしえてくれました。なまえをおぼえても、あうのは、きょうがはじめてです。  
しえんがっこうにつくと、いちねんせいのよにんとせんせいが、あるいてむかえにきてくれました。せは、わたしたちとおなじくらいでした。  
はじめに、じこしょうかいをしました。わたしたちはひとりずつ、しえんがっこうのよにんは、せんせいといっしょにしました。みんな、じょうずにじこしょうかいができました。  
「ふつうにはなせるんだなあ。」  
と、おもったら、  
「どんなことをはなそう、ともだちになれるかなあ。」  
とますますドキドキしてきました。  
つぎに、みんなで、てのうたをうたいました。おおきいこえでうたったら、すこし、どきどきがよくなってきて、みんなニコニコしていました。  
さいごに、みんなで、スケボーさんりんしゃやサバニこぎきょうそうをしました。とつてもたのしくて、  
「ガンバレー！」  
と、おうえんしているうちに、ドキドキもどこかへとんでいってしまいました。かったときは、よにんといっしょにてをたたいて、とびあがって、よろこびました。  
「かってよかったね。」  
「つぎもかとうね。」  
と、おはなしもできて、とてもうれしかったです。  
でも、もうかえるじかんです。せんせいが、  
「きょうからみんなは、おともだちですよ。」  
と、いいました。  
「ねえ、おかあさん。しえんがっこうのよにんはね、おはなしもできるし、うたもうたえるし、ゲームもたのしそうにやっていたよ。わたしとおなじ、いちねんせいだったよ。もっとたくさんおはなししたかったなあ。でもね、またらいねんもよにんのおともだちにあえるんだって。らいねんは、いっぱいおはなししよう。だってともだちになれるんだもん。らいねんの、こうりゅうじゅぎょうがたのしみだなあ。」

## 第2部

### 平成21年度沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰

時間 14:20－15:00

平成21年度沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰として沖縄県知事賞と奨励賞の受賞者表彰を行います。

また、沖縄県知事賞を受賞した社会福祉法人まつみ福社会の介護老人保健施設桜山荘での活動や取組みについて紹介します。

#### 1 平成21年度沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰 受賞者一覧

##### (1) 沖縄県知事賞

社会福祉法人まつみ福社会介護老人保健施設桜山荘（豊見城市）

##### (2) 奨励賞

○ 沖縄脊髄損傷者連合会（那覇市）

○ 株式会社サンエー

〔しおざきシティ（糸満市）、なかぐすく店（中城村）、那覇メインプレイス（那覇市）〕

○ 沖縄都市モノレール株式会社（那覇市）

#### 〔沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰について〕

沖縄県では、高齢者、障害者等をはじめ、すべての人が安心して生活し、自らの意思で自由に行動し、等しく社会に参加することができる地域社会の実現を目指して「沖縄県福祉のまちづくり条例」を制定していろいろな施策を推進しています。

施策の一つとして、「沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰」を創設し、条例の趣旨に沿った「福祉のまちづくり」に寄与する取組みや活動を行っている個人や団体で、顕著な功績のあった個人等を表彰することとしています。

表彰は、年1回行っており、平成21年度で3回目になります。



## 2 平成21年度受賞者の取組み紹介

### 【沖縄県知事賞】

#### 社会福祉法人まつみ福祉会介護老人保健施設桜山荘

- 所在地 豊見城市字高嶺111番地
- 設立年 平成元年桜山荘開設

#### 【講評（評価された取組み、活動等）】

社会福祉法人まつみ福祉会は、介護老人保健施設桜山荘及びその関連施設において、平成21年6月現在で31名の障害者を雇用し、障害者の雇用と介護に関する事業所の運営のあり方について重要なモデルとなる施設を運営している。

同法人は、施設の運営に当たり、「雇用が障がい者に希望をもたらす」ことを明確に意識した「共生ケア」の理念のもとに、平成15年度以降に障害者雇用を着実に進めてきた。

同法人のこの取組みは、様々な制約条件がある状況において、障害者の社会参加を実現するとともに介護に関する事業所として障害者を雇用する意義を明確に示し、さらに就労支援・訓練に関する制度の活用の可能性と課題を示しており、その実績が高く評価される。

また、理念と実践の地域への広がりを目指した活動を行っており、その展開が期待されるとともに、県内の様々な活動主体への波及とそれぞれの連携が望まれる。



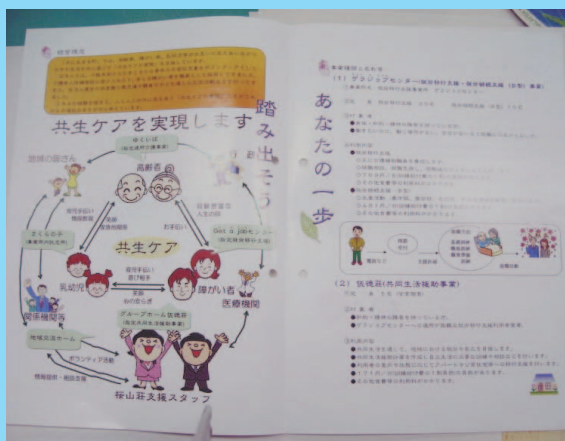
桜山荘の施設外観



デイサービス部門の状況



高齢者や幼児が楽しく交流する関連施設「共に生きる町」



共に生きる町パンフレット

## 【奨励賞】

### 沖縄脊髄損傷者連合会

○所在地 那覇市首里石嶺町4丁目373番地の1

○設立年 昭和57年4月

#### 【講評（評価された取組み、活動等）】

沖縄脊髄損傷者連合会は、脊髄損傷者及び重度身体障害者の医療充実、社会参加の促進、福祉の増進と会員相互の親睦を目的とした活発な活動を重ね、ピアサポートなど障害当事者による脊髄損傷者等の生活支援に取り組んでいることに加えて、特に、バリアフリー化の推進について、公的施設整備への障害当事者の参画の定着に重要な役割を果たしている。県内でのバリアフリーの実現への貢献とバリアフリーに関する課題への社会的認知を広げるための啓発活動が高く評価される。



バリアフリーチェックの取組み



ふれあい車いすバスケットの活動

## 【奨励賞】

### 株式会社サンエー

#### （しおざきシティ、なかぐすく店、那覇メインプレイス）

○所在地 宜野湾市大山7丁目2番10号

○設立年 昭和45年5月

#### 【講評（評価された取組み、活動等）】

株式会社サンエーは、利用者の声を店舗の改善に結びつける取組みを続ける中で、推薦対象となった3店舗（しおざきシティ、なかぐすく店及び那覇メインプレイス）において、これまで主に公的施設において整備されてきたオストメイト対応トイレを県内の民間施設でいち早く設置したことが高く評価される。オストメイトの方からも高い評価と期待を受けている。

なお、同社が利用者の要望による店舗施設全般のバリアフリー化に幅広く取り組んでいる中で、今回の選考が推薦に基づく推薦項目に係る部分に限るものであったことから、オストメイト対応トイレ整備が行われて2年以上を経過した3店舗の施設整備等について表彰対象としている。



オストメイト対応トイレ（3店舗に整備）



しおざきシティ授乳室

## 【奨励賞】

### 沖縄都市モノレール株式会社

○所在地 那覇市宇安次嶺377番地の2

○設立年 昭和57年9月（平成15年開業）

#### 【講評（評価された取組み、活動等）】

沖縄都市モノレール株式会社は、開業時から、障害のある方が利用可能な駅施設と車両を整備し、電動式のスロープによって車椅子使用者が車両に円滑に乗降可能な公共交通機関を実現している。利用可能な人とエリアが限定されている状況ではあるものの、車椅子・シニアカー使用者の一日平均の乗車数が約30人という実績は現時点の水準として高く評価されるものである。

また、3駅（空港駅、県庁前駅及び首里駅）において、オストメイト対応トイレ整備などの施設整備がなされており、県内での交通バリアフリー推進に重要な位置を占めてきたものと評価される。



車いす乗降スロープ



オストメイト対応多目的トイレ



#### 【これまでの受賞者一覧】

##### 1 平成20年度受賞者

###### (1) 沖縄県知事賞

- 特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議（沖縄市）
- 平田観光株式会社（石垣市）

###### (2) 奨励賞

- 株式会社ラグーンリゾート名護 オキナワマリオットリゾート&スパ（名護市）
- 沖縄県友声会（沖縄市）

##### 2 平成19年度受賞者

###### (1) 奨励賞

- 株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント ホテルイーストチャイナシー（石垣市）
- 山田隆一（石垣市）
- 小倉隆一（石垣市）



## 第3部

## パネルディスカッション

(テーマ) ともに支え合う共生社会の実現を目指して…

時間 15:10-16:30

障害のある人と障害のない人がともに支え合う共生社会の実現を目指して、バリアフリーな社会と福祉のまちづくりを実現するための課題に関し、県民一人一人はその課題を解決するために何に取り組むべきか、どのように意識し、行動することが求められているかなどについて、各分野の専門家が意見を交換するパネルディスカッションを行います。

### ■パネリスト



むらかみ あきよし  
村上 有慶

(沖縄県福祉のまちづくり  
審議会 会長)

県内各地域の住環境の調査に取り組むとともに数々の自治体のまちづくり委員等を歴任する。現在も沖縄県福祉のまちづくり審議会会長として、バリアフリー社会の実現に向けた取組みを推進している。東京都出身。



ながやま せいこう  
永山 盛孝

(団設計工房 所長)

昭和51年に一級建築士事務所団設計工房設立。公共的建築物や住宅の設計においてバリアフリー化に積極的に取り組むとともに高齢者や障害者の方の住環境を改善するための社会活動を精力的に展開している。専門学校非常勤講師や県の福祉のまちづくり審議会委員等を務める。那覇市出身。



おやかわ おさむ  
親川 修

(沖縄バリアフリースター  
センター センター長)

那覇空港内で「沖縄バリアフリースターセンター」を運営。観光・宿泊施設等のバリアフリー対応状況の紹介や交通機関の手配、介助者の派遣などのサポート事業を展開し、沖縄観光のバリアフリー化を推進している。沖縄市出身。



やました まさひろ  
山下 政広

(社会福祉法人まつみ福祉会  
介護老人保健施設桜山荘  
事務長)

昭和60年に社会福祉法人まつみ福祉会に就職。平成15年以降、高齢者や障害者が共に支え合う「共生ケア」の実現を目指し、障害者雇用を着実に進めるとともに地域への広がりを目指した活動を積極的に行っている。長崎県出身。

### ■コーディネーター



ざは ゆきよ  
座波 幸代

(琉球新報編集局社会部記者)

立教大学社会学部社会学科卒業、米アーカンソー州立大学大学院社会学修士課程修了。平成13年琉球新報入社。編集局政経部経済担当として主に観光や情報通信分野を取材。現在は社会部記者として、地域の話題や子育て支援、雇用など幅広いトピックの取材に取り組む。那覇市出身。